

5種混合（百日せき・破傷風・ジフテリア・ポリオ・ヒブ） 定期予防接種のお知らせ

予防接種法に基づく定期予防接種を実施します。予防接種はお子さんを病気から守るため、また周りへの感染症の拡大を防ぐために必要なものです。予防接種の目的や内容をよく理解した上で、お子さんの体調の良いときに受けましょう。

- 1 対象年齢** 生後2か月～7歳半の日の前日まで
(標準的な初回接種開始時期：生後2か月から7か月の日の前日まで)
- 2 標準的な接種期間** 1 期初回・・・生後2か月～1歳未満
1 期追加・・・1 期初回の3回目終了後6月～1年半の間隔をあけて

3 接種回数・間隔

1 期	初回：3回	20日以上あけて (標準的接種間隔：4週間(医師が認めた場合3週間)から8週間あけて)
	追加：1回	初回の3回目の接種終了後、6ヶ月以上あけて (標準的な接種間隔：6ヵ月～1年半)

- 4 接種場所** 別紙「予防接種協力医療機関」5種混合の欄に○のある医療機関
※医療機関に予約をしてから接種してください。
- 5 持ち物** 予防接種予診票(伊那市発行のもの)・母子健康手帳
- 6 費用** 無料(公費負担) ※対象年齢を過ぎると実費になります。



裏面をご覧ください

7 予防する病気

百日せき	百日せき菌の飛沫感染で起こります。 突然激しく咳き込み、その後「ヒュー」という笛を吹くような音が聞こえる咳が特徴です。咳き込んで吐くこともあります。乳児では、せきで呼吸ができず、チアノーゼやけいれんが起こり、ひどい場合は亡くなることもあります。また、肺炎や脳症などの重い合併症を起こすことがあります。近年、長引くせきを特徴とする思春期・成人の百日せきがみられ、乳幼児への感染源となる危険性があります。
ジフテリア	ジフテリア菌の飛沫感染でおこります。感染は主にのどですが、鼻にも感染します。 症状は、高熱、頭痛、のどの痛み、犬の吠えるようなせき、嘔吐等です。重症になると心筋炎や神経まひを起こすこともあります。
破傷風	破傷風菌は土の中にあり、傷口から菌が体の中に入り感染します。 口や顔のしびれ・けいれんから始まり、数日以内に全身の強直性けいれんを起こします。 日光や騒音の刺激で全身性強直を起こし、次第に激しくなり死に至ることもあります。
ポリオ	かつて「小児まひ」と呼ばれ、国内でも大きな流行がありました。 感染したヒトの便中に排泄されたウイルスが口または鼻から体に入り感染します。感染してもほとんどは症状が出ずに終わり、一生抵抗力（終生免疫）を得られます。約5～10%の方が風邪の症状や胃腸炎を起こします。感染した人のうち約1000人～2000人に1人が、手足に麻痺を起こし、一生障害が残ることがあります。
ヒブ (インフルエンザ菌b型) 感染症	インフルエンザ菌b型(Hib)という細菌で発生します。 ヒトからヒトへ飛沫感染し、乳幼児の化膿性髄膜炎、敗血症、肺炎などの重篤な全身感染症を引き起こします。髄膜炎は5歳以下の乳幼児がかかりやすく、特に生後4か月から1歳までの乳児に多く見られます。初期症状は発熱、嘔吐、けいれん等で他の病気と症状が似ているため、早期診断が難しい疾患です。毎年冬に流行するインフルエンザと名前が似ていますが、全く別のものです。

8 ワクチンの副反応

局所の反応が最も多く、接種部位の発赤、しこり、腫れなどがみられます。また、注射部位以外の反応では、37.5℃以上の発熱、食欲減退等がみられることがあります。発赤や腫れは数日で自然に治まりますが、小さなしこりが1カ月ほど残ることもあります。(ゴビック令和5年11月改訂添付文書、クイントバック令和5年9月作成添付文書より)

令和6年9月30日までに医療機関から報告された重篤症例の発生頻度は、0.0022%です。

(令和7年1月第105回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会資料より)

9 接種上の注意

令和6年4月より、4種混合ワクチンとヒブワクチンは、5種混合に切り替えとなりました。初回接種を5種混合ワクチンで開始した方は、原則として、同じ種類のワクチンで規定回数の接種を行ってください。途中で4種混合とヒブワクチンに切り替えることはできません。

R7.4.1

<お問い合わせ先> 伊那市役所健康推進課予防係 電話0265-78-4111 内線2332